

蝸牛ぼやき放題

店舗：阪神本線、阪急今津線、今津駅下車、北へ徒歩3分／営業時間：12時～18時半 定休日：火曜日と土曜日

—あけましておめでとうございます。お正月ですね。

何か正月に係るお話しか伺えればと思うのですが？

滝田：おめでとうございます。……。正月、三がにちといえば、昔、古本屋は一年のうちで一番古本が売れた日だったと違うやろか。うちんところは、そうだった。他の店のことは、よう知らんけど……。うちんところは、正月は3日から店を開けていたけど、よう売れましたで～。まだゲームや携帯のない時代やから、初詣の帰りしなにな、みなさんうちんところ寄って古本をようけ買ってくれましたなあ。なんでも、レジの前に人がようけ並んではったわ。

しかし、もうそういう時代と違うので、今はさっぱりですわ。

—またまた、そう仰っても着実に売り上げはあげておられる。

滝田：（微笑）

—始めた頃に、大口の購入のあったことなど、覚えておられますか？

滝田：そうやねえ。筑摩書房の『現代日本文学全集』（全97巻）のセットが売れたことがあったなあ。棚の上に、ずらっと並べていましたからね。

—どんな人が覚えてますか？

滝田：よう知らんなあ。

—そうですね、本を買う人は何度も来れば、顔は覚えるでしょうけど、本を売るにくる人の方が名前を書いてもらうし、覚えているでしょうね。

滝田：ええ本をようけ持ってきてくれる人は、覚えるよ。

—そうですね。

滝田：スバルで働いていた頃からの得意さんで、独立して新たに店舗を構えた時、わざわざ来店してくれてねえ。その後、度々ええ本ようけ持ってきてくれましたねえ。……。あんたも、その一人やで。

—ええ？ 本当ですか？

滝田：（微笑）最近は、あかんけど。

—はは、…売る本がなくなっちゃって。（笑）ところで、この店舗の始まる頃のこと*、教えていただけますか。

*昭和53（1978）年に、ここ西宮市津門宝津町に古書籍店 蝸牛（カタツムリ）を開店。

滝田：それまで大阪駅梅田の地下にあったスバル書房で勤めとったけど、この店舗を開いた時は、今の半分のスペースで、小さな古本屋としてのスタートやった。本当に真四角で、かあいらしい店でしたわ。

—どんな古本屋でしたか？ その～、どんな本が並んでいたんでしょうね。

滝田：そりゃ、ええ本ばかり。

—基本図書ばかりってことですかね。

滝田：そうそう。スバル時代に、一生懸命、集めたよってな。そりゃあ、自分でも惚れ惚れする立派な古本屋やった。

—今は、入口側にレジがありますが、その頃も変わらずに？

滝田：いや、入って奥にあった。しかし、ええ本ばかり並べると、どんどん、ええ本から順番になくなって、スカスカになってしまうやろ。残りもんばかりになると、どうも棚が魅力的じゃなくなってしまうねん。まして、ここに売りに来る人の持ち込む本といえば、『ドラえもん』とかやろ。そうやって古本屋を初める多くの方は、学ばんやろうけどな。うちは違ったで。そこはスバルで学んでた。ええ本は、小出しにして、ちゃんととって置かな、あかんいうことやな。

—なるほど、バランスが何より大切ということですね。それで今でも店舗にある棚には、いろんなジャンルが、バランス良く本が並べられているわけですね。

滝田：そうでもないと思うけど。（笑）

—またまた～。（笑）

（聞き手：北野辰一）